



かいじゅう vs かいじゅう 出原司 京都市立芸術大学退任記念展

2019年3月9日(土)–3月24日(日)

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

主催：京都市立芸術大学

出原司 (いずはら つかさ)

1953年京都生まれ。1979年京都市立芸術大学西洋画科専攻科修了。1996年より京都市立芸術大学美術学部常勤教員。2005年より同美術学部教授。主な展覧会に「MAXI GRAPHICA」(京都市美術館ほか、1988, 1989, 1990, 2001, 2008)、第3回・第5回 和歌山版画ビエンナーレ(和歌山県立近代美術館、1989, 1993)、「版から／版へ」(京都市美術館、1989)、「アート・ナウ」(兵庫県立近代美術館、1994)、「現代の版画」(渋谷区立松涛美術館、1994)、「現代版画・21人の方向 –現代版画入門–」(国立国際美術館、1999)、釜山ビエンナーレ2010「Now! Asian Artists」(釜山、韓国、2010)、個展(番画廊、2011)、「HANGA展——日本とベルギーの版画の今日」(シント=ニクラース市立美術館、ベルギー、2014)など。

開田 裕治 (かいだ ゆうじ)

1953年兵庫県生まれ。京都市立芸術大学を卒業後、イラストレーターとしてデビュー。「怪獣絵師」という異名を持ち、特撮ファンはもちろん、幅広い層から支持を得ている。第24回ゆうばり国際ファンタスティック映画祭ファンタランド大賞市民賞受賞など、受賞歴多数。スティーブン・スピルバーグ監督作品『レディ・プレイヤー1』国内版ポスターを制作する他、作品展、イベントなどの活動多数。日本SF作家クラブ会員。

制作協力：小川 紗季、水野 真緒

会場設営：鳥居本 顕史、粟津 友菜、上森 響子、岡田 夏美、小西 景子、佐藤 雄飛、鈴木 真衣子、武雄 文子、谷口 優花、中桐 聡美、山本 知穂、吉浦 真琴

お問合せ：京都市立芸術大学 事務局 連携推進課(事業推進担当) TEL: 075-334-2204 (平日8:30-17:15)

@KCUA

KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS ART GALLERY 京都市立芸術大学 ギャラリー-アーツ (観/観海ギャラリー内)

http://gallery.kcuu.ac.jp

京都市立芸術大学  
Kyoto City University of Arts

@KCUA

# かいじゅう vs かいじゅう

出原司 京都市立芸術大学退任記念

TSUKASA IZUHARA - KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS RETIREMENT EXHIBITION

KAIJŪ vs KAIJŪ TSUKASA IZUHARA KYOTO CITY UNIVERSITY OF ARTS RETIREMENT EXHIBITION

Saturday, March 9 – Sunday, March 24, 2019

Kyoto City University of Arts Art Gallery @KCUA

Organized by Kyoto City University of Arts

\* *Kaijū* is a homonym that means 海獣 (marine animals) and 怪獣 (monsters).

TSUKASA IZUHARA

Born in Kyoto in 1953. MFA in Oil Painting, Kyoto City University of Arts, 1979. Full-time faculty in the Printmaking Department at Kyoto City University of Arts since 1996 and professor since 2005. Exhibitions include *Maxi Graphica* (Kyoto Municipal Museum of Art, 1988, 1989, 1990, 2001, 2008), the 3rd and 5th Wakayama Hanga Biennales (The Museum of Modern Art, Wakayama, 1989 and 1993), *Intersection of Printing* (Kyoto City University of Arts, 1989), *Art Now* (Hyogo Prefectural Museum of Art, 1994), *Gendai no hanga* (The Shoto Museum of Art, Tokyo, 1994), *The Axis of 21 Printers in Kansai: Introduction to 20th Century Prints* (The National Museum of Art, Osaka, 1999), 2010 Busan Biennale: *Now! Asian Artists* (Busan Cultural Center, Busan Metropolitan City Hall, Geumnyeonsan Gallery, Korea, 2010), solo exhibition at Bangarow (Osaka, 2011), and *HANGA: Japanese en Belgische Prentkunst Vandaag* (Sint-Niklaas City Museum, Belgium, 2014).

YUJI KAIDA

Born in Hyogo Prefecture in 1953. Graduated from Kyoto City University of Arts. Illustrator based in Tokyo. Best known for illustrations of *kaijū* (monsters). Awards include the Citizen's Award at the 24th Yubari International Fantastic Film Festival Fanta-land Awards. He recently created the artwork for the Japanese poster for Steven Spielberg's *Ready Player One*, and has participated in many exhibitions and events. Member of Science Fiction and Fantasy Writers of Japan.

Prints made with the cooperation of Mao Mizuno and Saki Ogawa. Exhibition installed by Takafumi Torimoto, Yuna Awazu, Keiko Konishi, Satomi Nakagiri, Natsumi Okada, Yuhi Sato, Maiko Suzuki, Ayako Takeda, Yuka Taniguchi, Kyoko Uemori, Chiho Yamamoto, and Makoto Yoshiura

Contact: Kyoto City University of Arts (Office of External Relations) – Phone: +81-(0)75-334-2204 (Weekdays excluding national holidays, 8:30 AM to 5:15 PM)

出原さんは、乳児が物をしゃぶることで物一つひとつを確認するのとおなじように、世界をなぞりたいと希っている。世界を絵画のように小さく粹どるのではなく、実物大の世界に向きあい、その大きさにときめきたいと思っている。でもその世界も、そのなかの一つひとつのモノや生きものも、わたしたちはじつは複製、つまり実物を縮めた転写態で知っているだけ。鯨だって、実物を見た人がいったいどれだけいるというのか。

世界を「なぞる」とは、それを「うつす」ということ。実物を版で像として「写す」ことは、何かをそっくりそのまま他の場所に現われさせること、つまり「移す」ことでもあるのだ。

だがここで、「写す」ことから、実在とその投影、あるいは原物とその写しという前提を外せばどうなるか。うつろう「像」こそがモノとしての存在よりも先だということ

退任記念展では僕の作品だけではなく、在任中、学生達と一緒に制作した同僚の先生方のリトグラフや、この展示のために久しぶりの呼びかけに答えてくれたゲストの怪獣絵師、開田裕治氏のイラストレーションを展示する予定です。

僕は自らの作品をオーバーサイズプリントと呼称しています。版画ではあるけれど目の前にそびえ立つ偉物とでもいうようなものを目指して制作してきました。たぶん子供の頃、地藏盆の野外上映会で見たゴジラなど、のちに怪獣映画と言われる見世物の記憶が元になっていると思います。開田氏は僕にとって(本人は迷惑かもしれないかもしれないけれど)実はこんな風に生きたかったのかもしれないとずっと思ってきた、もう一人の自分のような存在です。今回彼は僕の見たかったかいじゅう(怪獣)を見せてくれるのですが、その作品はどんなに示唆に富

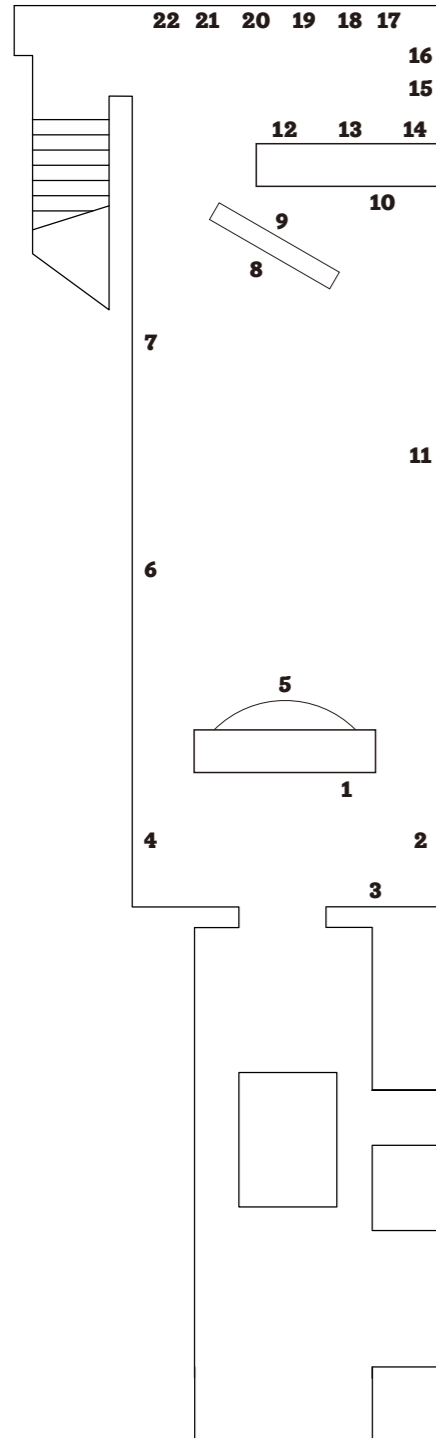
にならないか。どんな世界も「実在」ではなく「版」だということにならないか。そうだとすれば、面影や幻、空耳など、ふとよぎる、夢か現かおぼつかないものこそいっそリアルに思えてくる。ということは、今回、相棒として招かれた開田裕治さんの《怪獣アート》もきっと、そうあったかもしれない出原さんの写し鏡なのだろう。

4年前の4月、わたしが京都市立芸術大学に着任した翌日に、キャンパスをぶらり巡るなか最初にのぞいたのが、出原さんの実習室だった。床はぴかぴかに磨かれ、備品や道具はみごとになまでに整然と並べられていた。「これも版画?」とギョッとさせられる自由奔放な作風と、その制作場所の整頓との大きな落差に、この人の仕事は信頼できると確信したのだった。

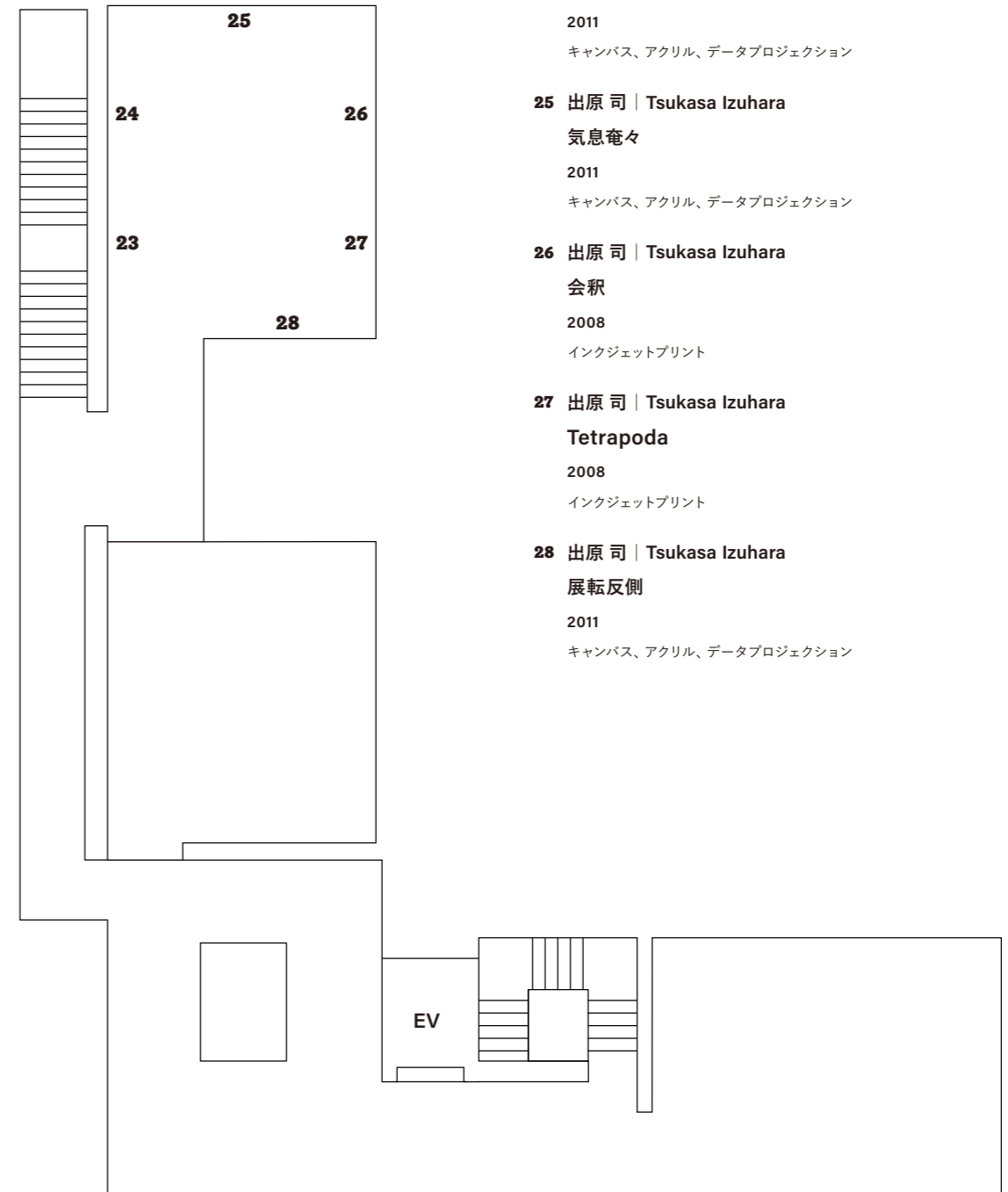
京都市立芸術大学学長 鷲田 清一

んでいても徹底的に空想の世界です。向かい合わせになる僕の作品は版画なので何重もの写しという手順を踏んでいます。直接的という言葉の対極にあるもので真贋が定めにくいものと言えます。だからこそモチーフが、かいじゅう(海獣)であることが重要なのです。その生物が背負わされた僕たち人間の問題を、リアルサイズで表現しようとする画面からはみ出してしまう版画の宿命のようなもどかしさを通して、かえって「リアル」を際立たせると考えているからです。かなり前から望んでいた二人三脚を実現できそうで楽しみでもあるのですが、同時に「vs」という前置詞が間にあるからには、一対一の対決物でもあるのでとても緊張しています。

出原 司



- |   |   |
|---|---|
| <p><b>1</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>捕食<br/>1995<br/>リトグラフ   100.5 × 75.0 cm   ed. 1/25</p> <p><b>2</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>F-22 似せ (砂漠迷彩)<br/>2009<br/>リトグラフ   73.4 × 57.0 cm   ed. 1/25</p> <p><b>3</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>f4 ducati<br/>2009<br/>リトグラフ   A.P.</p> <p><b>4</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>お口のインスタレーション (部分)<br/>1996<br/>リトグラフ   150.0 × 150.0 cm<br/>ユニークプリント</p> <p><b>5</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>Patchwork/Aspic<br/>2016<br/>紙、リトグラフ、モノタイプ   ターボリン、インクジェットプリント   356 × 356 × 240 cm</p> <p><b>6</b> 開田 裕治   Yuji Kaida<br/>龍の夜<br/>2012年10月<br/>初出: 「群龍割拠 猫とドラゴン展」(東京都美術館)   技法: Photoshop</p> <p><b>7</b> 開田 裕治   Yuji Kaida<br/>彼方より<br/>2014年10月<br/>初出: 「第2回 MONSTER展」(渋谷ヒカリエ)   技法: Photoshop</p> <p><b>8</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>クジラの袖振る (A面)<br/>2010<br/>紙、リトグラフ   木枠、スチールフット<br/>320 × 400 × 260 cm</p> <p><b>9</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>クジラの袖振る (B面)<br/>2010<br/>紙、リトグラフ   木枠、スチールフット<br/>320 × 400 × 260 cm<br/>河田小龍《津呂組奥宮捕鯨絵図》1852-55年頃 (絵馬下絵・室戸市教育委員会所蔵) を元に制作<br/>Based on a painting by KAWADA Shoryu c. 1852-55 (coll. Muroto City Board of Education)</p> | <p><b>10</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>偉キナ魚<br/>1995<br/>リトグラフ   75.0 × 100.0 cm   A.P.</p> <p><b>11</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>原寸大の贖物<br/>2019<br/>リトグラフ、モノタイプ、フォトコピー<br/>ユニークプリント</p> <p><b>12*</b> 宮本 道夫   Michio Miyamoto<br/>金剛菩薩<br/>リトグラフ   ed. 32/35</p> <p><b>13*</b> 法貴 信也   Nobuya Hoki<br/>リトグラフ   ed. 39/40</p> <p><b>14*</b> 山中 晴夫   Haruo Yamanaka<br/>リトグラフ   ed. 37/40</p> <p><b>15*</b> 浅野 均   Hitoshi Asano<br/>片雲断処 孤月輝<br/>リトグラフ   ed. 4/5</p> <p><b>16*</b> 浅野 均   Hitoshi Asano<br/>リトグラフ   ed. 8/10</p> <p><b>17*</b> 松井 紫朗   Shiro Matsui<br/>リトグラフ   ed. 11/15</p> <p><b>18*</b> 松井 紫朗   Shiro Matsui<br/>リトグラフ   ed. 14/15</p> <p><b>19*</b> 秋山 陽   Yo Akiyama<br/>リトグラフ   ed. 37/40</p> <p><b>20*</b> ひろいのぶこ   Nobuko Hiroi<br/>リトグラフ   T.P. stage 2</p> <p><b>21*</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>夜灰櫻<br/>2018<br/>リトグラフ   A.P. stage 2</p> <p><b>22*</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>夜灰櫻<br/>2018<br/>リトグラフ   ed. 2/25</p> |
|---|---|



- |   |
|---|
| <p><b>23</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>hairy moose<br/>2008<br/>インクジェットプリント</p> <p><b>24</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>moose<br/>2011<br/>キャンバス、アクリル、データプロジェクション</p> <p><b>25</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>氣息奄々<br/>2011<br/>キャンバス、アクリル、データプロジェクション</p> <p><b>26</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>会釈<br/>2008<br/>インクジェットプリント</p> <p><b>27</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>Tetrapoda<br/>2008<br/>インクジェットプリント</p> <p><b>28</b> 出原 司   Tsukasa Izuhara<br/>展転反側<br/>2011<br/>キャンバス、アクリル、データプロジェクション</p> |
|---|

\*2010-19年の学部開放授業(テーマ演習)「リトグラフによる京都芸大の一断面 —学生と共に他専攻教員作品をつくる—」の成果作品展示